

'69

フェリス音楽科
演奏会

名古屋 || 久留米 || 佐賀 || 福岡 || 熊本

名古屋・九州とフェリス

桑 田 秀 延

フェリス女学院は、在横浜の中高、短大、大学よりなる、学生数二千名ばかりの小さなキリスト教学園であります。明治三年に開設せられ、明年創立百年を迎えようとしている、女子校では、東京の女子学院とともに日本で一番古い学校であります（男子校では慶応が大分前に百年記念を迎えました）。

この度のフェリス短大音楽科主催の演奏旅行は、名古屋をふり出しに、九州の諸市で行なわれます。これは、フェリスとこれらの地区との歴史的なつながりによるものであります。音楽科だけでなく、短大家政科へも、そして最近は大文学部（国文、英文）へも、遠く九州の諸地方から入学される方がふえています。

フェリスはプロテスタント系の女子校であります。この度の演奏旅行の行なわれる名古屋や九州の諸市には、同じ系統の女子の学園があり、それらの学校からフェリスへ入学せられる学生が近時ふえて来たわけであります。

フェリス女学院としてはこのことを心から喜び歓迎している次第であります。

（フェリス女学院院長）



＊ 演 奏 会 日 程 ＊

10月9日（木） 名古屋市一中電ホール・4時／7時 プログラムA

主催＝フェリス女学院音楽科名古屋同窓会・協賛＝日本楽器名古屋店

10月11日（土） 久留米市一石橋文化ホール・6時30分 プログラムB

後援＝久留米大牟田地区フェリス同窓会奨学会・久留米市教育委員会・久留米音楽文化協会

KBC久留米音楽学園・協賛＝日本楽器九州支店

10月12日（日） 佐賀市一佐賀市民会館・4時 プログラムB

後援＝佐賀県教育委員会・協賛＝日本楽器九州支店

10月13日（月） 福岡市一福岡電気ホール・6時30分 プログラムB

主催＝フェリス女学院短大音楽科・フェリス女学院九州支部同窓会

後援＝福岡音楽文化協会・協賛＝日本楽器九州支店

10月14日（火） 熊本市一熊本県立図書館・6時30分 プログラムB

後援＝熊本ヤマハ会・熊本日々新聞・フェリス女学院同窓会熊本支部

協賛＝日本楽器九州支店

プログラム A (名古屋)

I 女声合唱 (独唱・二重唱つき)

スターバト・マーテルより……………ペルゴレージ

- 第1曲 (合唱) 聖母はなげきて
- 第5曲 (二重唱と合唱) 聖母を思っていたれか泣かざる
- 第6曲 (ソプラノ独唱) わが主のみたまはからだを去りゆき
- 第8曲 (合唱) 主イエスを愛する愛のあつき火を
- 第10曲 (アルト独唱) とうとき十字架をあおぎて
- 第11曲 (二重唱) この世の終りのきびしきさばきの日にこそ
- 第12曲 (二重唱) この世を去るとき (合唱) アーメン

フェリス音楽科合唱団
指揮 三宅洋一郎
オルガン 島田 麗子

ソプラノ 長谷川 雅 (昼)
アルト 兼高 朱実 (昼)
ソプラノ 斉藤 定子 (夜)
アルト 稲田 史子 (夜)

II ヴァイオリン二重奏

調和の靈感より

合奏協奏曲第5番……………ヴィヴァルディ

ヴァイオリン 斎藤 幸枝
山本久美子
ピアノ 横井 汐音

III 独唱と二重唱

- おおイエス・やさしきみ名……………シュッツ
- 神よ、清い心を与えたまえ……………シュッツ
- 汝の血、わがあがない……………バッハ
- 天に向かって、呼びかけ、祈れ……………バッハ

ソプラノ 三宅 春恵
テノール 唐津 東流
オルガン 島田 麗子
フルート 宇野 浩二
ヴァイオリン 水谷真理子
神戸きよみ

IV 二台のピアノのための

ベートーヴェンの主題による変奏曲……………サン・サーンス

ピアノ 大島 君子
ピアノ 三宅洋一郎

V 小協奏曲……………シャミナード

フルート 宇野 浩二
ピアノ 大島 君子

VI 女声合唱

- 風に寄せて……………萩原 英彦
- ある日……………中田 喜直
- アダムとイヴ……………中田 喜直

フェリス音楽科合唱団
指揮 三宅洋一郎
ピアノ 久保 浩

プログラム B (久留米、佐賀、福岡、熊本)

I 女声合唱(独唱・二重唱つき)

スターバト・マーテルより……………ペルゴレージ

- 第1曲(合唱)聖母はなげきて
 第5曲(二重唱と合唱)聖母を思いたれか泣かざる
 第6曲(ソプラノ独唱)わが主のみたまはからだを去りゆき
 第8曲(合唱)主イエスを愛する愛のあつき火を
 第10曲(アルト独唱)とうとき十字架をあおぎて
 第11曲(二重唱)この世の終りのきびしきさばきの日にこそ
 第12曲(二重唱)この世を去るとき(合唱)アーメン

フェリス音楽科合唱団

指揮 三宅洋一郎

オルガン 島田 麗子

ソプラノ 松村かほる(久留米)

アルト 稲田 史子(〃)

ソプラノ 渋谷 里子(佐賀)

アルト 兼高 朱実(〃)

ソプラノ 木村 晴子(福岡)

アルト 柴田 嘉子(〃)

ソプラノ 緒方 誠子(熊本)

アルト 稲田 史子(〃)

II 独唱と二重唱

- おおイエス・やさしきみ名……………シュッツ
 神よ、清い心を与えたまえ……………シュッツ
 汝の血、わがあがない……………パッハ
 天に向って、呼びかけ、祈れ……………パッハ

ソプラノ 三宅 春恵

テノール 唐津 東流

オルガン 島田 麗子

フルート 宇野 浩二

ヴァイオリン 水谷真理子

神戸きよみ

III 二台のピアノによる八手のためのソナタ……………スメタナ

吉田 雅子

山中伊都子

吉岡 尚子

海 うしほ(熊本)

重松 晴美(久留米、佐賀、福岡)

IV 二台のピアノのための

ベートーヴェンの主題による変奏曲……………サン・サーンス

ピアノ 大島 君子

ピアノ 三宅洋一郎

V 小協奏曲……………シャミナード

フルート 宇野 浩二

ピアノ 大島 君子

VI 女声合唱

- 風に寄せて……………萩原 英彦
 ある日……………中田 喜直
 アダムとイヴ……………中田 喜直

フェリス音楽科合唱団

指揮 三宅洋一郎

ピアノ 久保 浩

＊ 曲 目 解 説 ＊

池 上 信 子

スターバト・マーテル＝ペルゴレージ

26才という若さでこの世を去ったペルゴレージ（1710～1736）はモーツァルトと同様恵まれない一生を送った。このスターバト・マーテル（1736年作曲）は、オペラ・ブッフアという新しいジャンルを開ききっかけとなった〈奥様女中〉と共に、彼の代表作とされている。スターバト・マーテルとは、聖母の7つの悲しみの祝日のミサ聖祭の続誦で、十字架のかたわらで、嘆き悲しむ聖母の気持を唱い、全部女声の独唱、二重唱、合唱から成る一種のオラトリオである。原曲には弦楽とパイプオルガンの伴奏がつけられているが、ここではオルガンの伴奏で演奏される。ペルゴレージのあの歌う旋律と、ときには感傷的でさえある美しさがそこにある。

第8曲合唱では、ソプラノ・アルトに加え通奏低音のパートが主題を追いかけ、見事なフーガの形をとり、全曲中のクライマックスを作りだしている。

調和の靈感より 合奏協奏曲 第5番＝ヴィヴァルディ

「赤毛の僧侶」として親しまれたアントニオ・ヴィヴァルディ（1675～1741）は若くして僧院に入り、数えきれない程の宗教作品を残している。ソロ協奏曲、合奏協奏曲のスタイルを大成し、後のバッハや数多くの作曲家に少なからぬ影響を与えており、現在でも静かなブームを起す程の愛好家を持っている。

この「調和の靈感」は、作品3の中に12の協奏曲が含まれ、その中の3番、8番、9番、10番はバッハによりオルガン協奏曲に編曲されて世に知られている。

おおイエス・やさしきみ名 神よ、清い心を与えたまえ＝シュッツ

ハインリッヒ・シュッツ（1585～1672）は、ドイツ・バロック音楽の第一歩を踏み出し、その扉をあけたといわれる、17世紀の最も偉大な作曲家の一人である。作品はモテットを始め、オペラ器楽曲等数多く残されているが、いずれも深い信仰の立場から作曲されている。

汝の血、我があがない（カンタータ78番より）＝バッハ

このカンタータは、ルカ伝17章の、病人の物語にもとづいた宗教詩による曲で、三位一体節後の第14番目の日曜日に唱われるものである。全部で7曲からできているが、この第4曲目にあるアリア（ト短調）は、テノールのためのアリアである。この曲は二つの対照的な部分から構成されていて、前半はフルートの柔かい音色が鳴り響くなかで「汝の血は我があがない」と唱われ、後半は力強いアクセントにより「戦い征服せよ」と叫び続けられる。

天に向かって、呼びかけ、祈れ（カンタータ63番より）＝バッハ

これはカンタータ63番〈キリスト者よ、この日を心に刻め〉のなかの第5曲にあたり、テノールとソプラノがクリスマスを前にしたキリスト者の敬虔な気持を歌う。おそらくワイマール時代の作品と考えられるが、ライプツィヒのトマス教会では待降節の第1日曜日にこのカンタータを演奏した。 ”バッハのカンタータの中に無いものがあるだろうか” というのはシュワイツァーの言葉であるが、この二重唱は、いかなる階層の人にもでも美しいと感じさせるようないいかえるならば、しばしば難かしいバッハという噂のためにバッハを敬遠しがちな人たちの耳をしっかりとらえるような、そんな力をもった曲である。

八手のためのソナタ ホ短調＝スメタナ

〈売られた花嫁〉〈我が祖国〉で有名なチェコのスメタナは、悲しい戦争のために祖国を失いその復興を願って民族主義運動に加わり、後年にチェコ国民楽派の始祖となった。

それ故彼の作品は、スラブの民俗舞曲等も多く用いられ、強い民族的色彩をもって作曲されている。この八手連弾のピアノ作品もその例にもれず、底力のあるスラブ的性格がいたるところに現われている。彼はオリジナルの作品として2台のための八手連弾を数曲も書いているが、これは他の作曲家があまり手掛けていない珍しい分野のものである。このピアノ曲は1楽章のソナタで、力強いはっきりとしたテーマによって書き始められている。この作品が書かれたと言われる1849年は、丁度カタリーナとの結婚の年にあたり、苦境の中にも拘らず彼独特の華やかさが、十二分に発揮されている曲である。

ベートーヴェンの主題による変奏曲＝サン・サーンス

サン・サーンス（1835～1921）は幼時よりその神童ぶりを発揮し、モーツァルトと比較されるほどであった。彼は後にパリで最高のオルガン奏者の地位につき、その技巧的な演奏は、他に及ぶ者がないとされた。彼の作曲技法は、ロマン派の時代に生きながら、その本質は古典主義的な、洗練された優雅さにあつたと言われている。

この〈ベートーヴェンの主題による変奏曲〉は、1874年に作曲され、テーマはベートーヴェンのソナタ作品31の3の第3楽章メヌエット中間部（トリオ）の部分からとられている。曲は跳躍する音程の快活な導入をもったテーマの後、旋律的、和声的、拍子・テンポなどの変化に富んだ変奏をへて、次第に盛り上がり、終りに近い第9変奏では、壮大な速いフーガに入り、第10変奏のけんらんたるプレストで曲を閉じている。

小協奏曲＝シャミナード

セシル・シャミナード（1857～1944）はフランスの女性ピアニストでありまた作曲家である。日本ではあまり知られていないが、この〈小協奏曲〉のように親しみやすいスタイルを特徴としている。

この作品は、1902年パリ音楽院フルート科の卒業課題として作曲されたもので、洗練された抒情的なメロディーは、現在に到るまで広くフルート奏者に愛好されている。

風に寄せて＝立原道造作詩・萩原英彦作曲

萩原英彦は、フェリス女学院音楽科で作曲や理論の指導に携わり、抒情的な女声合唱用の作品を多く作っている作曲家である。1965年には大作「ミサ曲」を発表している。この〈風に寄せて〉は、風と小川の微妙な動きを、細やかな感動をもって書き綴った立原道造の詩によるもので、地上の片隅の自然のハーモニーを、情感豊かな女声合唱のハーモニーに置き換えている。

ある日＝日比澄枝作詩・アダムとイヴ＝谷川俊太郎作詩・中田喜直作曲

日本の作曲家として特に歌曲の方面に於て秀れた作品〈雪の降る町を〉〈夏の思い出〉等を数多く書いている中田喜直は、フェリス女学院音楽科にて長年教鞭をとっている。

その作品にみられるデリケートでありながら、一度聴くと忘れられないような親しみを抱かせる旋律は、日本人の心の故郷につながっているようでさえある。伴奏といえども、それは秀れたピアノの書法によって独特の余韻をそこに留めている。今回演奏される〈アダムとイヴ〉は、空そして太陽・星・海・森の天地創造から、アダムとイヴが現れ、やがて人間の子孫がふえにふえるという谷川俊太郎の詩に作曲されたもので、女声合唱とピアノの部分の繊りなす素晴らしい響きを注目したい。もう一曲の〈ある日〉は、物思いに耽ける少女の気持を、美しい旋律で唱い上げ、詩と音楽の見事な融合をみせている。

＊ 出 演 者 紹 介 ＊

三 宅 洋 一 郎 （ピアノ・指揮）

1937年東京音楽学校（現芸大）ピアノ科卒業。1939年同研究科修了。レオ・シロタ、レオニード・クロイツァーの諸氏にピアノを、クルト・ウェス氏に指揮法を学ぶ。1953年西独ケルンに留学。現在、フェリス女学院短大教授、音楽科長。桐朋学園大学講師。日本女声合唱団（旧フェリス女声合唱団）専任指揮者、ピアニストとして活躍している。

島 田 麗 子 （オルガン）

東京音楽学校（現芸大）器楽科オルガン専攻卒業、秋元道雄氏に学ぶ。NHK交響楽団、読売日響、東京交響楽団のオルガンパートを受持つ。また、オラトリオ等の宗教的作品のオルガン奏者として広く知られている。現在、フェリス女学院短大音楽科講師、東京芸術大学音楽学部講師、ヤマハエレクトーンセンター講師。

三 宅 春 恵 （ソプラノ）

東京音楽学校（現芸大）声楽科卒業。同研究科修了。ヴァーハーペーニッヒ氏に学ぶ。1939年〈フィデリオ〉のマルツェリーネでデビューして高い評価を得て以来、オペラ公演、リサイタル、放送と多方面にわたって活躍。1957年ヨーロッパに留学、グロスマン教授に学び、現在フェリス女学院短大教授として、また演奏家として目立った活動をつづけている。

唐 津 東 流 （テノール）

ピュージェット・サウンド大学音楽学部、ニューヨークのマンハッタン音楽学校オペラ科に留学。ニューヨーク、シアトルでリサイタルを開いたほか、英国、アイルランドに演奏旅行。帰国後、オペラ歌手、オラトリオの独唱者として活躍。現在、フェリス女学院短大音楽科講師、桐朋学園大学音楽学部講師、二期会会員。

宇 野 浩 二 （フルート）

1951年東京音楽学校（現芸大）器楽科卒業。近衛交響楽団及びA B C交響楽団の首席フルート奏者をへて、1962年イタリア政府留学生として、ローマ・サンタ・チェチリア音楽学校に留学、ロンゴ、ガッツェローニの諸氏に学ぶ。現在、独奏者として、また東京バロック五重奏団を主宰するなど、東京を中心に活躍している。フェリス女学院短大講師。

大 島 君 子 （ピアノ）

フェリス女学院短大音楽科卒業。同研究科修了。大島正泰、レオニード・コハンスキー、豊増昇氏の諸氏にピアノを学ぶ。諏訪市にてリサイタル、東京にて*f*グループ・ジョイントリサイタルを開く。また、横浜交響楽団定期演奏会をはじめ、放送を含むコンサートにたびたび出演。現在フェリス女学院短大音楽科講師。

久 保 浩 （ピアノ）

1968年東京芸術大学器楽科（ピアノ専攻）卒業。三宅洋一郎、田村宏、マックス・エッガーの諸氏に学ぶ。現在フェリス女学院短大助手として、独奏、室内楽、ピアノ伴奏等の研鑽を積んでいる。

倉 長 治 子 （総監督・フェリス女学院短大教授）

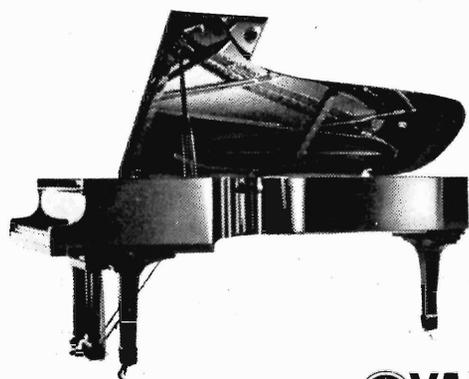
* 卒業生紹介 *

出演する卒業生は、それぞれ専門の分野における演奏や、音楽教育の領域で信頼のできる活動をつづけている人達ばかりですが、詳細については紙面の都合で掲げることができませんでした。

斎藤定子 (声楽)	34年静岡雙葉高校卒、36年フェリス女学院短大卒
稲田史子 (声楽)	35年九州女学院高校卒、38年フェリス女学院短大専攻科卒
海うしほ (ピアノ)	37年九州女学院高校卒、40年 //
木村晴子 (声楽)	37年神奈川・横須賀高校卒、40年 //
吉岡尚子 (ピアノ)	37年東京・香蘭女学校卒、40年 //
吉田雅子 (ピアノ)	37年福岡女学院高校卒、40年 //
斎藤幸枝 (ヴァイオリン)	38年菊里高校卒、40年フェリス女学院短大卒
池上信子 (音楽学)	38年フレンド学園高等部卒、41年フェリス女学院短大専攻科卒、解説担当
緒方誠子 (声楽)	38年九州女学院高校卒、41年 //
柴田嘉子 (声楽)	38年福岡女学院高校卒、41年 //
山本久美子 (ヴァイオリン)	39年金城学院高校卒、42年 //
横井汐音 (ピアノ)	39年明和高校卒、42年 //
山中伊都子 (ピアノ)	40年福岡中央高校卒、43年 //
長谷川雅 (声楽)	41年金城学院高校卒、44年 //
兼高朱実 (声楽)	41年上野学園高校卒、44年 //
松村かほる (声楽)	41年九州女学院高校卒、44年 //
重松晴美 (ピアノ)	41年福岡女学院高校卒、44年 //
渋谷里子 (声楽)	42年大分舞鶴高校卒、44年フェリス女学院短大卒



新しいメカニズムと 伝統の名人芸の調和



ピアノの世界 ピアニストの世界 それは伝統の世界。ピアノづくり それは芸術の世界 木の芸術家。世界最高と評価されるYAMAHAのピアノづくりはアラスカ 南アメリカ アフリカ ルーマニアなど全世界から厳選した適材に長い年月をかけて芸術の創造と変らない精巧な技術で1台1台の音色を磨きあげます。たゆみない研究から生まれた新しいメカニズムと伝統の日本人気質のみごとな調和に世界の巨匠は賞賛を惜しみません。

 **YAMAHA PIANO**

日本楽器製造株式会社